

教区・直属学生担当委員長各位

立教 183 年 3 月 25 日

天理教学生担当委員会

委員長 茶谷良佐

3 月例会 委員長挨拶に代えて

今月は例会中止にあたり、書面にての挨拶に代えさせていただきます。

この度、先生方には色々ご配慮いただき、誠にありがとうございました。学生生徒修養会、春の学生おぢばがえりに参加を予定されていた学生生徒へ、心をお配りいただき、その後の丹精にお努めくださっていることと思います。

先日、別席場である方とお会いしました。

「今年、学修に参加を予定をしていた子なんです。中止は残念でしたが、別席を運んでくれることになったんです。今年 1 人目の初席なんです。中止になったけど、いいこともありました。ありがとうございます。」

また、ある人からラインをもらいました。学修のフォローとして、参加予定だった学生たちとおぢばがえりをされ、新型コロナウイルスの一日も早い終息を願っておつとめされたということでした。

「彼らにとって、今年の春が自分を見つめ直すきっかけになったかもしれない。」と綴られていました。文面の最後には、「ありがとうございます。」とありました。私は改めて、お道の人って本当に素晴らしいなと感動しました。

中止になって、色々残念なことや困ったことがあったと思いますが、しかし何かさせてもらおうと、声をかけ次につなげていく行為は、まさしくその後の“丹精プラス 1”であります。さらには、「ありがとう」と思えるその心遣いは、困難な時こそ、陽気ぐらしに向けて前向きに実践する中からでる言葉であります。これは、“誠の心”ではないでしょうか。

(裏面に続く)

「節から芽が出る」とお聞かせいただきます。今回お見せいただいたことは、芽が出るための節なのだと確信いたします。

今回、春の学生おちばがえりに向けて1年前から準備に励んでくれた春の学生おちばがえり実行委員会のメンバーが、中止決定後も何かさせてもらえることはないかと、種々相談に来ます。

残念ながら、今回は集まること自体が駄目なので、辛いところではあります。企画に反対せざるを得ません。しかし、いよいよ学生ならではの素晴らしい動画企画を編み出してくれました。このことについては、また発表があると思いますので楽しみにしててください。

また、実行委員会では、毎年28日当日まで、開催に向けてのお願いづとめをつとめていましたが、新型コロナウイルスの終息へのお願いづとめにかえて、現在も28日までつとめてくれています。他教区学生会や直属学生会、大勢の学生がそれぞれで終息を願っておつとめをしてくれているとも聞かせてもらいました。おちばがえりは叶わなかったけれども、今回の節を通して、一歩も二歩もおたすけ心を養ってくれた学生は少なくないと思いました。

これも一重に、教区、直属学生担当委員の先生方の鼓舞による丹精の賜物と思います。誠にありがとうございます。

今回、学生がおちばがえりをする機会が1回減りましたが、学生担当委員会と致しましては代わりの行事は考えていません。しかし、学生がおちばに帰らせもらう機会は大切です。次の学生生徒修養会、春の学生おちばがえりの開催が叶いますように、学生担当委員として活動方針を我が心とし、「誠の心」を努力して養っていきたいと思います。

その上で、“学修プラス1”“春学どっと鼓舞”の活動に取り組み、ますます学生担当委員会が一手一つに、学生層の育成に集中して励ませていただきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。